

北九州市孤独・孤立対策等連携協議会の今後の方向性

【これまでの議論】

①縦割り解消、横ぐしの必要性

- 行政と民間団体それぞれの縦割りを解消し、行政と民間団体、民間団体同士も横でつながる仕組み

②つなぐ・つなげる仕組み

- 本人やその家族が必要な支援につながり、その支援が途切れないよう、つなげていくことが必要

③支援者同士の顔の見える関係づくり

- 民間団体、行政等の各支援者が、他の支援者と連携しながら支援が届けられるよう、日ごろから支援者同士の顔の見える関係づくり

④マンパワーの確保、人材育成

- 支援者の人員確保や個別ケースに対応できる人材育成

【今後の対応】

【①②に対応】

協議会参加団体数の拡大

- 協議会への入会・退会に関するルールづくり

【①③④に対応】

参加団体が
実施内容を企画・運営

- 支援能力の向上につながるようなケーススタディや各種研修の実施

令和5年度にこれらの内容について検討

⇒ 必要に応じ孤独・孤立対策等連携協議会開催要綱の改正